

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第1部門第2区分
【発行日】令和6年1月31日(2024.1.31)

【国際公開番号】WO2022/224859
【出願番号】特願2023-516450(P2023-516450)
【国際特許分類】
A 6 1 B 1/00(2006.01)
【F I】
A 6 1 B 1/00 5 5 1
A 6 1 B 1/00 5 5 3

10

【手続補正書】
【提出日】令和5年9月13日(2023.9.13)
【手続補正1】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0023
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0023】

20

光源用プロセッサ31は、プロセッサ装置14のシステム制御部41からの指示に基づいて光源部30を制御する。システム制御部41は、光源用プロセッサ31に対して、光源制御に関する指示を行う。通常観察モードの場合には、システム制御部41は、照明光を点灯する制御を行う。特殊光観察モードの場合は、システム制御部41は、特殊光を点灯する制御を行う。測長モードの場合には、システム制御部41は、照明光又は特殊光を点灯する制御を行う。

【手続補正2】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0040
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0040】

30

なお、注目領域検出処理で検出される注目領域は、例えば、がん为代表される病変部、処理の跡、手術の跡、出血箇所、良性腫瘍部、炎症部（いわゆる炎症の他、出血または萎縮等の変化がある部分を含む）、加熱による焼灼跡もしくは着色剤、蛍光薬剤等による着色によってマーキングしたマーキング部、または、生体検査（いわゆる生検）を実施した生検実施部を含む領域である。すなわち、病変を含む領域、病変の可能性のある領域、生検等の何らかの処置をした領域、クリップやかん子などの処置具、または、暗部領域（ヒダ（襞）の裏、管腔奥のため観察光が届きにくい領域）など病変の可能性にかかわらず詳細な観察が必要である領域等が注目領域になり得る。注目領域検出処理は、病変部、処理の跡、手術の跡、出血箇所、良性腫瘍部、炎症部、マーキング部、または、生検実施部のうち少なくともいずれかを含む領域を注目領域として検出する。

40

【手続補正3】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0050
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0050】

なお、観察距離は、観察距離取得部56で取得する。図13に示すように、観察距離取得部56は、内視鏡12又はプロセッサ装置14に設けられた観察距離測定部68によっ

50

て観察距離を取得する。取得した観察距離は、拡張ディスプレイ 18 の観察距離取得部 56 に送信される。観察距離測定部 68 は、例えば、ステレオカメラ、TOF (Time Of Flight) カメラ、超音波デバイス、鉗子デバイスなどであることが好ましい。また、図 14 に示すように、内視鏡の撮像光学系 23 の光軸 Ax に対して交差するように、測距用のレーザー Lm を照射し、被写体画像における測距用のレーザー Lm の照射位置から観察距離を測定してもよい。この観察距離の測定方法は、測距用のレーザー Lm を照射することで、観察距離の変化に合わせて、測距用のレーザー Lm の照射位置が変化することを利用している。なお、測距用のレーザー Lm は測距用レーザー発光部 69 から発せられる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】図面

10

【補正対象項目名】図 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

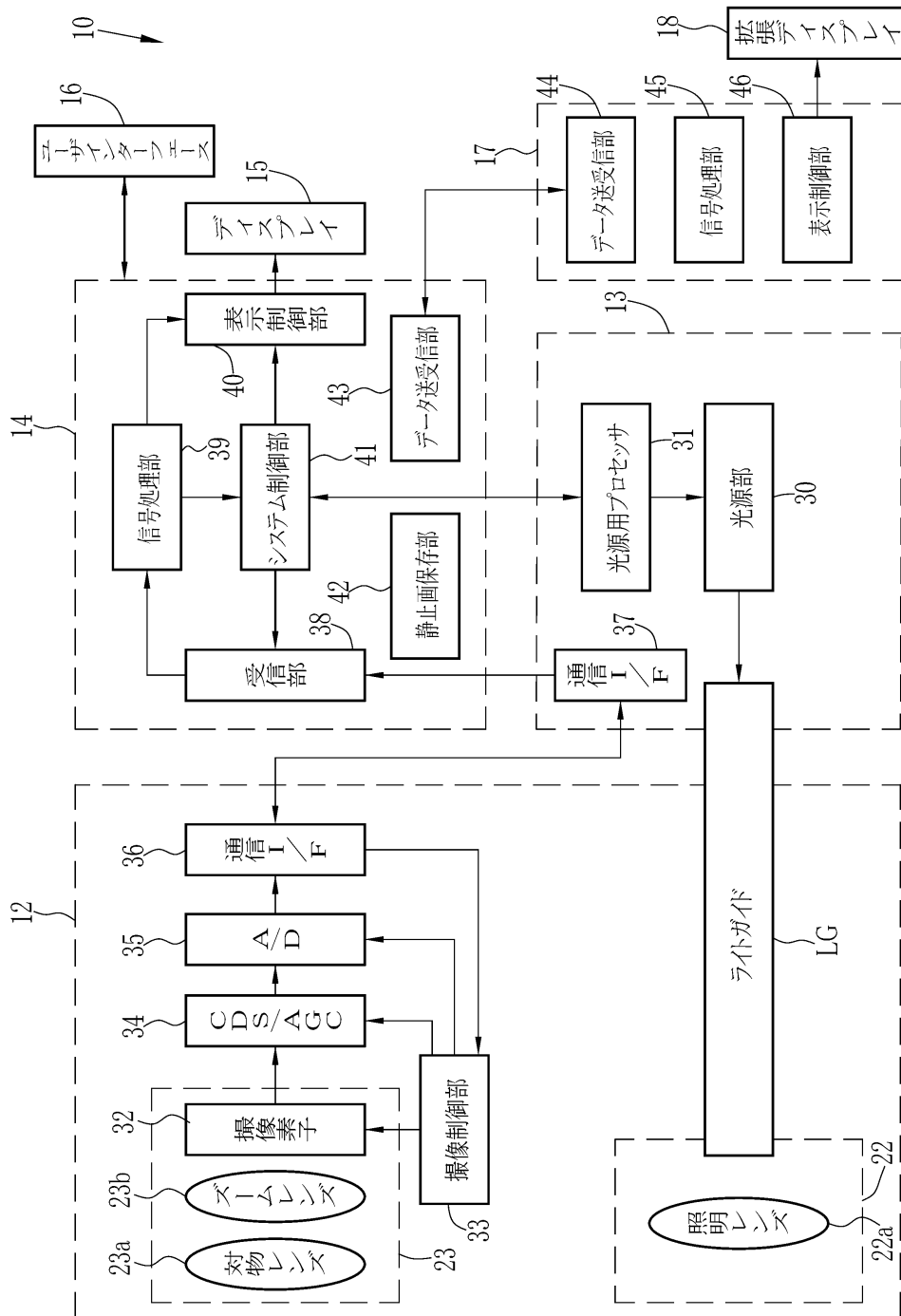
20

30

40

50

【図 2】



【手続補正 5】

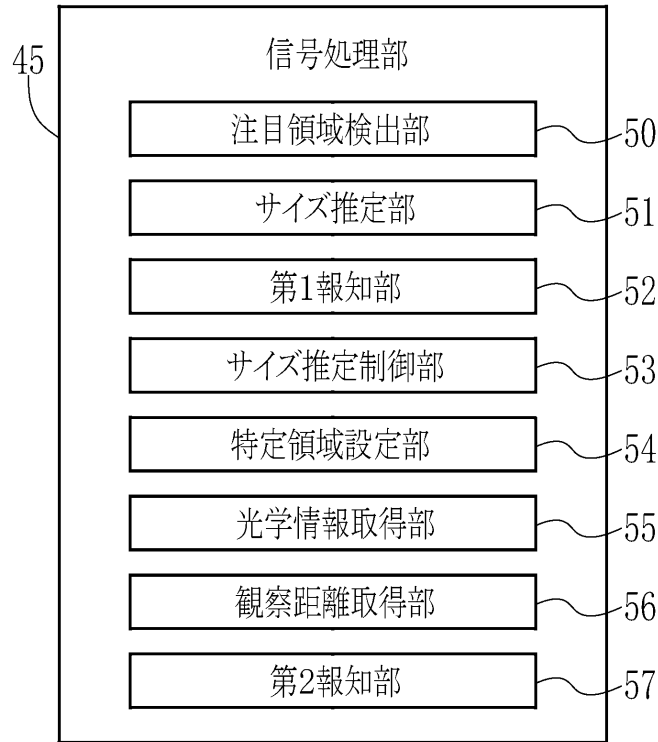
【補正対象書類名】 図面

【補正対象項目名】 図 4

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【図 4】



【手続補正 6】

【補正対象書類名】 図面

【補正対象項目名】 図 7

【補正方法】 変更

【補正の内容】

10

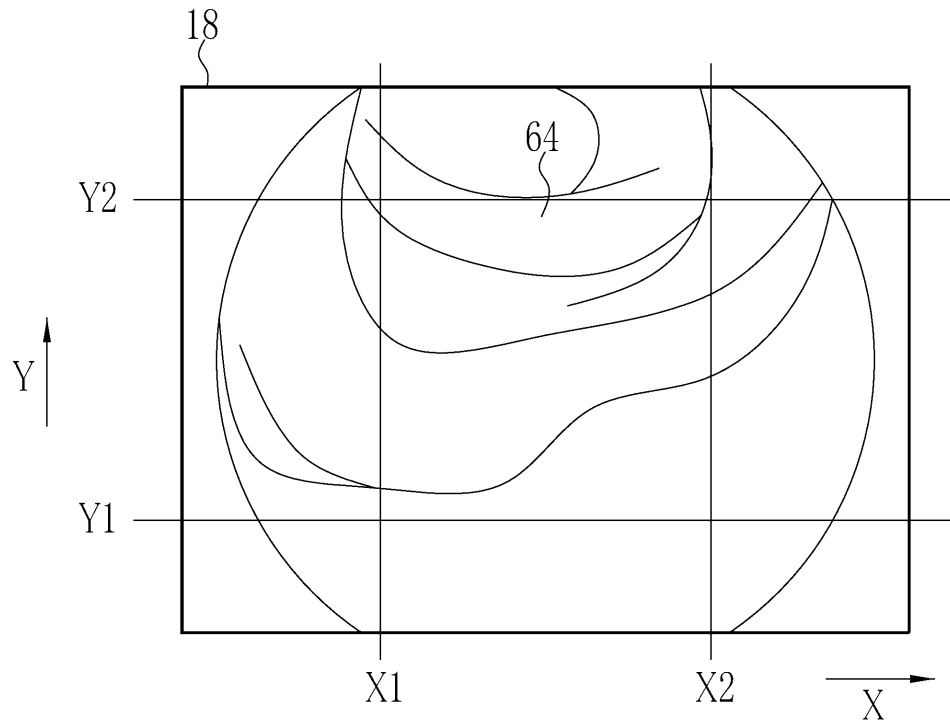
20

30

40

50

【図 7】



【手続補正 7】

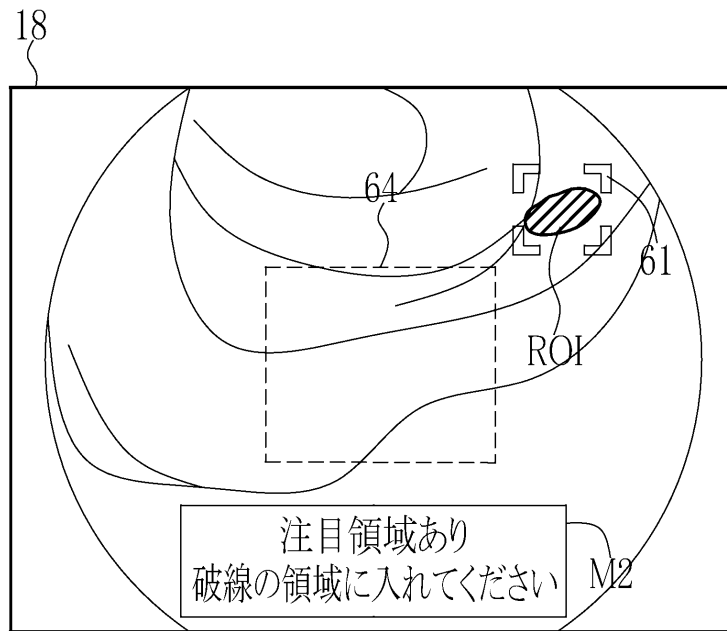
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 1 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 1 6】



【手続補正 8】

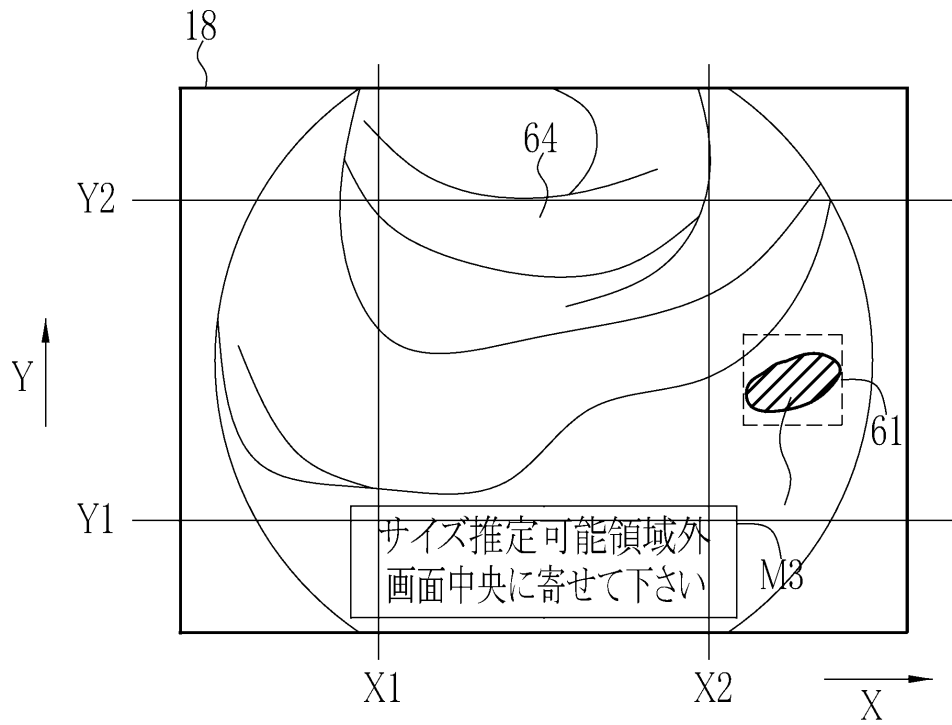
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 1 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 1 7】



【手続補正 9】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 1 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 18】

